

# オープンデータ政策における 活用事例集の意義：Open Data 500 からの考察

渡辺智暁

(国際大学GLOCOM、オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン)

一般社団法人 オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 利活用・普及委員会第1回会合 発表資料

2015.1.30. 於：TKP赤坂駅カンファレンスセンター

# Open Data 500 概要

- 商業利用事例を500件収集・公開するもの  
<http://www.opendata500.com/>
- 米国のNYUで元副CTOのBeth Noveck氏が率いる、GovLab発の取り組み
- ODについての著書もあるJoel Gurin氏が主導
- 収集手段： Gurin氏の著書からの採録、ネットでの呼びかけ、専門家からの情報提供などを通じた収集  
※体系的網羅性は志向していない
- 対象： ODを中核に据えた、米国の収益事業
- 公開方法： CSV、ビジュアライゼーション（業種別、地域別、提供者別など）

# Open Data 500 結果・効果

- ・産業・地域をまたがるOD利用の広がりは見えやすくなった
- ・収集内容は更なる充実が課題
- ・数が集まることで得られる感触や知見がある
- ・活用事例からビジネスモデルを分類する論文も登場
- ・メキシコ、豪州も対象に展開(OD 100)
- ・英国ODIが正式に連携、英国でも展開

<http://theodi.org/open-business-uk>

# アジア版Open Data 500構想

- OKFJとして提案・着手しているもの
- 日本だけでなく、アジア諸国と連携して進めてはどうか
- 互いに学び、刺激を与え合う効果も期待
- オープンデータを利用した商業目的の製品やサービス事例収集に日本では着手

# 期待と課題

## 期待

- ・政府・自治体などデータ提供者側のモチベーション向上
- ・経済効果を知る手がかり\*
- ・OD活用ビジネスのヒント\*

\*・・・GovLabの掲げる目的と共通

## 課題

- ・事例は見つけにくいものも多い

# オープンデータの経済効果

- ・数千億～数十兆円の経済効果が推計・予想されている\*
- ・大きな幅のある数字
- ・どこに効果が出ているのか、簡単にはわかりづらい
  - 数字だけでは足りない。事例も重要。
- ・The Climate Corporationなどめざましい事例だけでは「例外的な成功」と片付けられてしまうことも
  - 多種多様な規模、産業、地域などの事例を集めることも重要。
  - 広くODのメリットが存在していることがわかりやすくなる

# データ提供者側

事例を知ることができる・・・

- 動機付けになる

（政策推進の手段）

- どの程度手厚く実施すればよいかを考える材料になる

（政策評価の手がかり）

# 事例収集の困難

ウェブの検索で拾いにくい利用例

- 社内利用

（戦略策定に、オペレーション最適化に、...）

- B2B利用

（一般向け広報資料の乏しい製品・サービス）

- 組み合わせ・分析利用

（データセットではなく、それを組み合わせ、分析したアドバース・インテリジェンスなどを提供）

⇔

- 特定データの可視化などシンプルなもの

- 万人向けの無料ウェブサービス



# われわれの学習状況

- ・どのようなデータが何の役に立つのか、学習は続いている。
- ※「思わぬところに相関が見つかる」が今後も続く
- ・データの有用性を広い範囲の人が学べることに意義がある→経済の高度化を後押しする効果
- ※Open Data、Big Dataに共通の事情